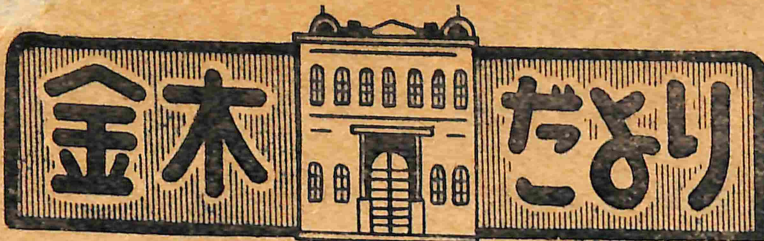




金木町の町章

発行 青森県金木町役場企
画室
印刷 東奥日報社



町章の意味

右の図案は、金木町寺町の
一戸哲三氏の考案によるもの
で、新しい金木町の象徴とし
て採用されたものである。
中央の円形は金木の二字を
表わし、上部の切割と円形を
芦野公園の桜の花弁とみなし
共に咲き、共に散る、すなわ
ち共存共栄の精神を表わす。
下部は三枚の旗であって、
これは新しい金木町を構成す
る金木、嘉瀬、喜良市の三部
落を示したもので、相協力し
て雄飛発展せんとする意です

特集号

八月十二日

合併十周年記念式典

金中講堂で

新しい金木町が誕生してから今年で満十周年。町ではこれを記念して八月十二日午前
十時から金木中学校講堂で式典を行なうことになりました。「金木だより」の今月号
は合併十周年記念特集号という形で送り出すことにします。

自治功労者を表彰

花田氏ら83名

昭和三十年一月二十四日、金木
町、嘉瀬村、喜良市村の一町二方
村が廃置分合(合併)申請書を提
出、同年三月新金木町が発足して
今年で十年目。現在人口一七、一
六〇人で、面積一、三六四四十
四平方メートル、面積一、三六四四
三、木工所が十八ありです。



町には県立金木高校、青森県養
鶏指導所、弘大金木農場、金木営
林署、金木警察署などのほか、国
や県の出先機関が数多くあり、郡
北の中心地として著実な発展を続
けています。

「近代的農業都市」をめざして
昭和三十年三月一日、旧金木町、
旧嘉瀬村、旧喜良市村の一町二方
村が合併してか
ら本年度満十周年に
なります。

新しい金木町の過



去を省みるとき、ま
ことに多事多難な十
周年であったことを
精感する次第であり
関係者の努力により、再建計画を
短縮して昭和三十七年度において
赤字団体より脱却することができ
たのであります。

難問を着実に解決

小田川ダムや庁舎の新築も

金木町長 三上武男

この間、制約された苦しい財政
状況ではありましたが、合併五力
年計画と新町建設五力年計画によ
る建設事業を遂行し、庁舎の増改
築、ブルド、サーの購入、川倉小
学校の新築、町営住宅の建設、保
育所の設置など、新町建設の基礎
づくりはほぼ完了したのでありま
す。今後の課題といたしましては、
小田川地区土地改良事業の推進、
農協の合併、南中学校校舎の建設
など、町民の福祉
の向上と生
活の安定を
図るため、
さしむけ積
極的な努力を
重ね、町政
の振興を期
す。

公民館、図書館、幼稚園などの社

合併後の町長

氏名	就任年月日	退任年月日
花田 一	昭30.4.7	昭33.3.7
津島 英治	昭33.9.19	昭37.4.18
三上 武男	昭37.4.19	-

特別功労者として表彰される人々



藤元 嘉嗣氏
野崎 昌一氏
中村 美智男氏

△通算十年以上の農業委員→成田
勇蔵、秋元武治、中谷太郎、楢
引政雄、原田富五郎、白川嘉四
郎、今久米雄、木立民五郎

△優良納税組合→朝日納税組合
(金木) 本町納税組合(喜良市)
△通算十年以上の職員→伊丸岡
實、外崎三三、岡田サカ、尾野伝
作、阿部アゴリ、長尾かし、岩村
太郎、今幸八郎、伊藤文雄

△通算十年以上の消防団員→三
上政雄、白川善三郎、今幸次郎、
荒瀬純輔、福長重雄、中谷二郎、
対馬要治、吉田米五郎、川口豊
白川源太郎、原田正一、山中巖、
平川久次郎、鎌田福辰、外崎義光
木下無市、桑田精治、三上正介、
嶋海為之助、吉崎新一、神島嘉吉
松川駒太郎、伊藤良雄、太田治、
藤元清

△教育文化功労者→嶋海民之助、
高橋四郎、大橋かつ



花田 一

この10年を省みて

町村の規模を適正化し、行政の
能率化と行政水準の向上のため町
村を統廃合するとい
うこと。昭和二十八
年十月に制定され
た。町村合併促進法
が制定された。合併
促進法は、明治
二十二年の町村制
行にも比肩する大
業でありました。

町民の意思を政治に反映

町政の振興に一段の努力
金木町議会議長 秋元正衛

合併に伴うあらゆる困難を克服し
いと願います。
時代は年々とも推移し、これ
す。さらに大きな事業をあげて
に併せて、社会、経済、文化など
あらゆる分野にわたって変遷を統
移管、時田小学校、川倉小学校の
新築、保育所の設置、公立金木病
院の完成、動物園の設置、大宮治
碑の建立、
統合中学校
校舎の着工
などがある
のでありま
す。しかし、
われわれはこれに満足することな
く、さらに住みよい郷土を建設す
べく、町民の意思を政治に強く反
映し、町政の振興に一段の努力を
重ねなければならぬと痛感する
次第であります。



原田 勇太氏

合併後の町議会議長

氏名	就任年月日	退任年月日
山中 七男	昭30.3.11	昭31.2.28
中村 美智	昭31.3.12	昭31.6.16
中原 元正	昭31.10.1	昭35.2.29
秋元 正	昭35.5.20	昭39.2.29
秋元 正	昭35.3.5	-

合併促進研究協議

△金木町→花田一(町長) 野宮平
助、中村美智男、田中勇吉、田中
直太郎(以上議員) 白川直義(議
長) 傍島正守、荒瀬豊七、殿名寿
郎(以上学識者)
△嘉瀬村→山中勝雄(村長) 山中

合併当時の議会議員

議長 白川直義、副議長 泉谷勇之助
議員 大橋五郎、田中勇吉、角田
政守、吉田敏正、津島千代雄、白
川源太郎、田中直太郎、岡本八
田中吉吉、中村健司、田中柳吉、
白川慎一、角田敏作、木村清吉、
中村美智男、工藤源三郎、白川兼
二(以上学識者)

合併当時の議会議員

議長 伊藤信雄、副議長 桑田信吉
議員 高橋繁、副議長 山中与七、議
員 山中武太郎、花田正義、斎藤和
吉、嶋海吉吉、太田浦三郎、津田
孫一、北川正市、伊藤清平、増田
清一郎、内海精蔵、鎌田善七、松
川兼次郎、広瀬与一郎、小松常五
郎、杉山武雄、北川孫一、成田勇
蔵、嶋海善八、原田源太郎

弘前大学農学部 記念講演会

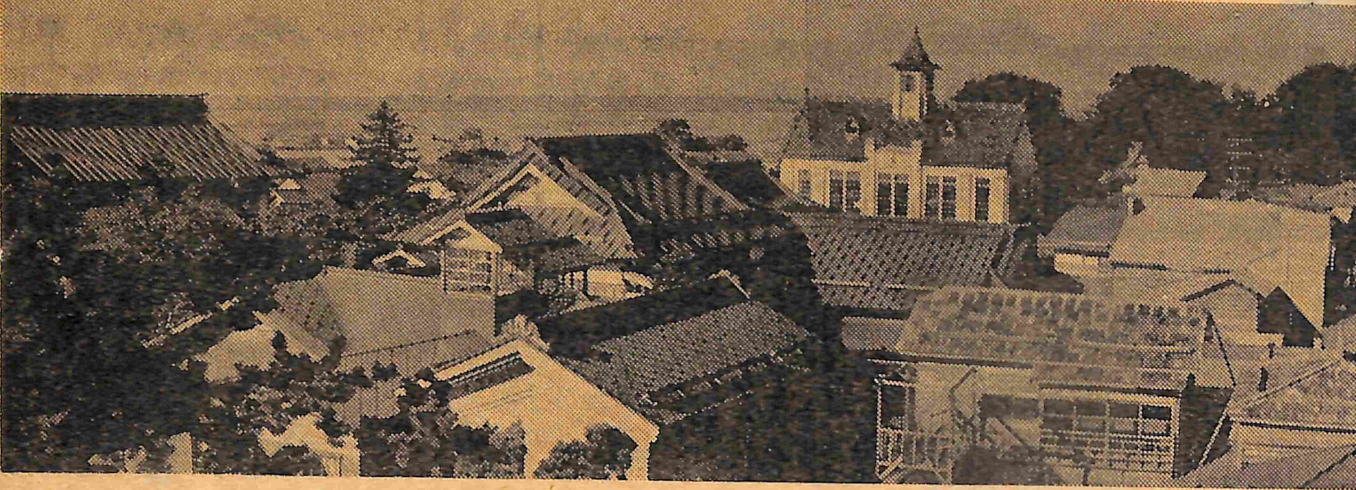
とき 八月十七日(火) 九時~四時
ところ 金木町青年研修所
演題と講師 森 敏夫
①新しい農業の技術と経営
②大型区画整理事業について
③青森県における畑作の問題点
④農産物は無料ですが、厚着をこたへ下さ

主催 弘前大学農学部
後援 金木町

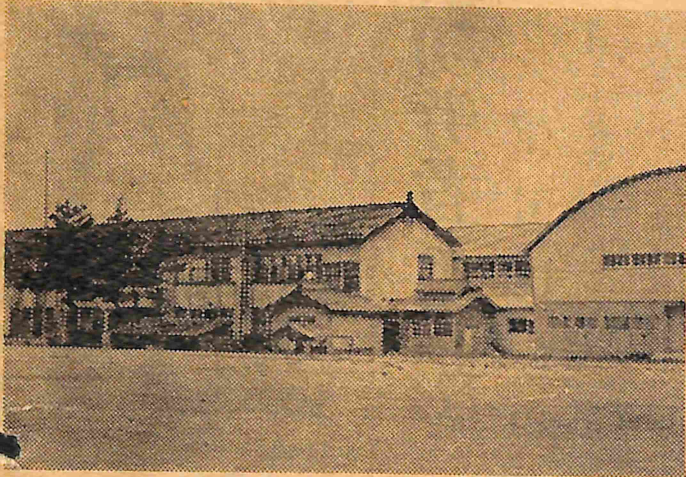
昭和30年—40年

写真で見る10年の足あと

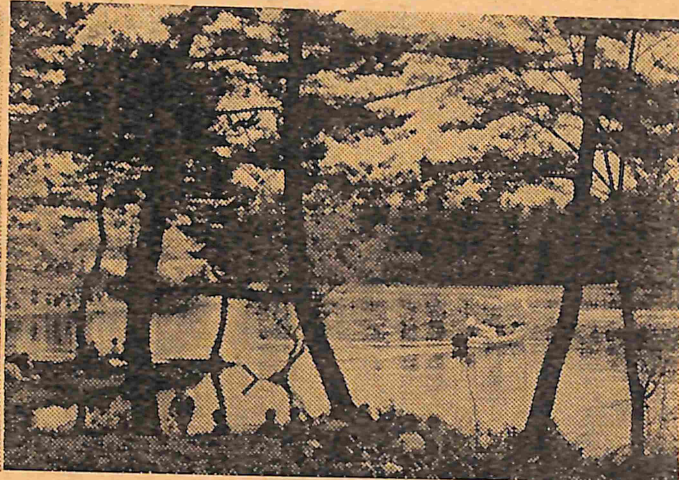
回…十年ひと昔という言葉がありますが、新しい金木町が誕生してからとして正しく十年、ひと昔過ぎたわけ…回
 回…です。いうまでもなく、わが金木町も青森県も、日本もそして世界も大きく変わりました。時は開断なく過…回
 回…ぎ、文化も絶えず進歩を続けます。
 回…しかし、過去あつての現在であり、現在あつての将来であることを思えば、私たちは、さらけいつその前…回
 回…進と繁栄を築くために、過去を見つめる一瞬があつていいはずだと思ひます。
 回…そこで、このページでは、金木町の過去十年間のおもなできごとを写真で見ることとしましょう。



〔金木町の中心部……役場屋上より（昭和39年撮影）〕



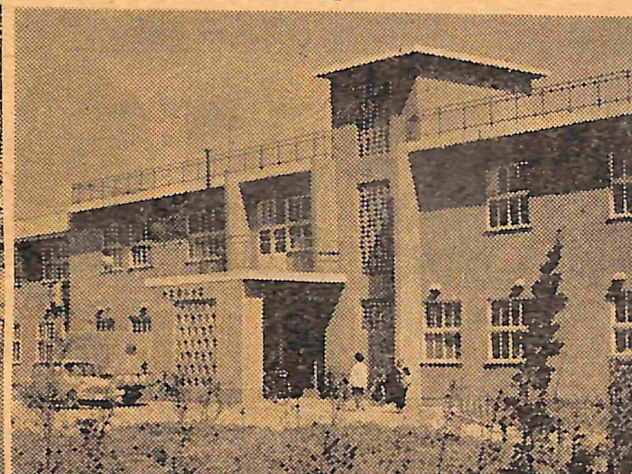
【金木高等学校…昭和30年9月完成。昭和23年五農分校として発足し、昭和27年組合立として独立。昭和37年県立に移管され、今や名実ともに郡北高等教育の中心となっている】



【県立芦野公園…昭和33年4月に屏風山・権現崎県立公園地区に指定。その後、動物園、梅園の設置、太宰治碑の建立など、施設の充実に力を入れている】



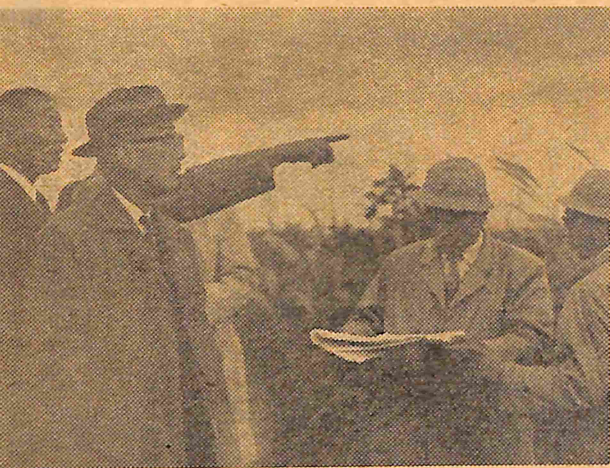
【芦野児童動物園…昭和36年4月開設。さる、くま、鹿、くじらなどを収容、こどもたちから喜ばれている】



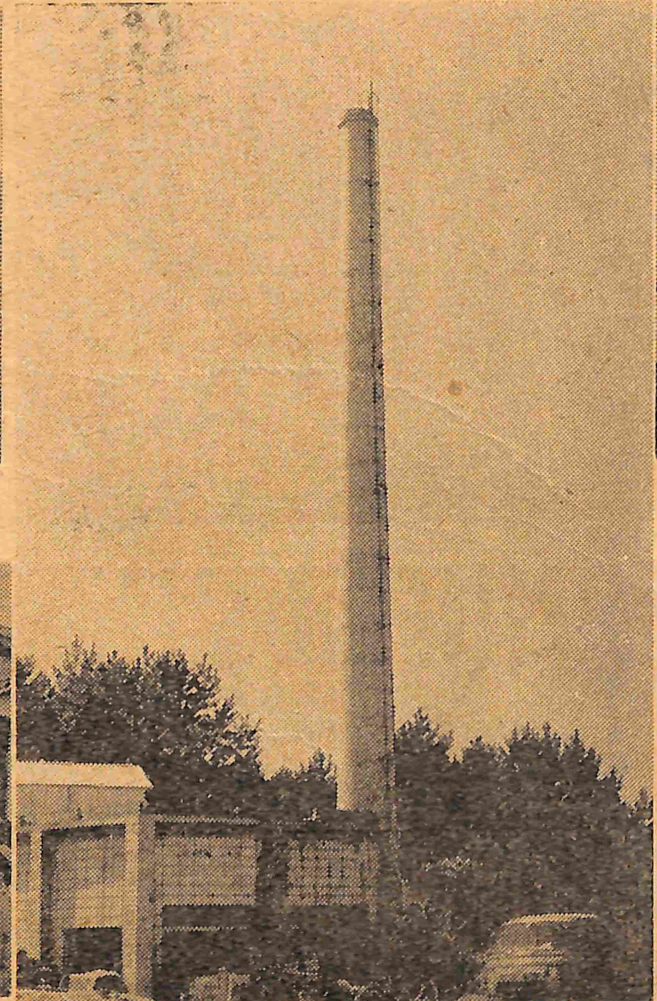
【公立金木病院…昭和37年8月完成。昭和33年10月、金木、中里両町の組合立として発足、昭和34年11月から工事に始まり、4年がかりで完成したもので郡北一の総合病院】



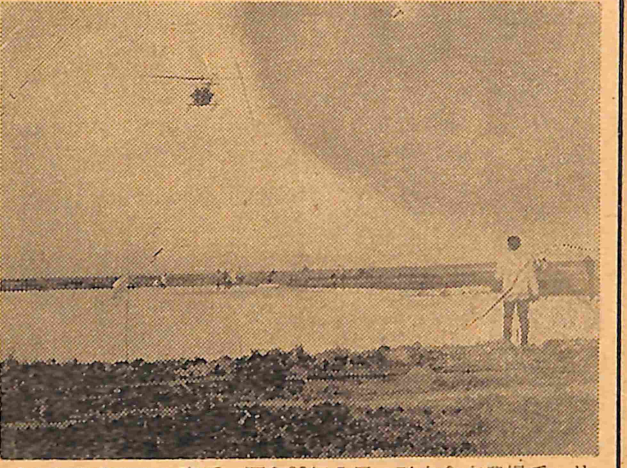
【雹害…昭和37年9月11日、川倉、藤枝などに雹が降り、稲、りんご、畑作などに9千万円以上の被害を与えた。町では被害農家に町税の減免、利子補給などの対策を講じた】



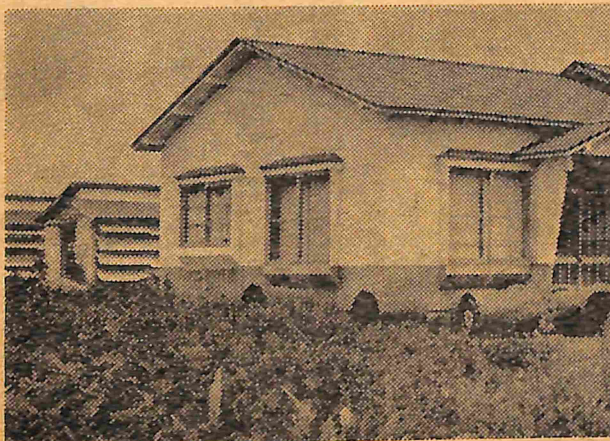
【津島次官小田川ダム現地視察…昭和37年10月、津島農林政務次官（現参議院議員）は小田川ダムの現地視察に訪れ、小田川ダム建設の早期着工の見通しが明るくなった】



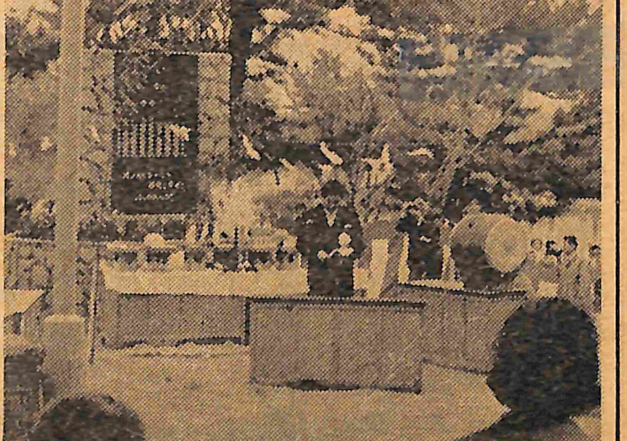
【ゴミの焼却場…昭和39年10月完成。建設場所は夏取りんご園の北側で、1日約5トンの処理能力があり、環境衛生の向上に力を発揮している】



【弘大農場の空中直播…昭和38年5月、弘大金木農場でヘリコプターによる空中直播の試験を実施。近代化農業のさきがけ、として注目された】



【金木農協の育すうセンター…昭和39年3月完成。県の集団養鶏地帯造成事業の指定を受け、事業費830万円で実施。年間2万5千羽の育すう能力がある。西北養鶏センターとともに地域養鶏振興に大きく寄与している】



【太宰治碑…昭和40年5月完成。太宰治は金木町が生んだ唯一の作家であり、その碑の建立は長い間の懸案であった。阿部合成画伯の独特の設計は好評を博している】